

# 学力の向上を目指した教育活動の展開

伊勢崎市立境西中学校

## I 主題設定の理由

知識基盤社会化やグローバル化の中、学校教育においては、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。新しい教育基本法の制定に続き、その教育理念を実現するための関連法や学習指導要領が改訂され、現在、移行措置期間の中で教育活動が展開されている。

「生きる力」を育成するためには、知・徳・体の調和が極めて重要であるが、生きる力の基盤となるのが、確かな学力の定着であると考え。言うまでもなく、学力の向上は、イコール学校教育とも言えるほど重要な課題の一つである。

本校は4年程前には、生活面、学力面ともに課題があり、この状況を変えることが急務であった。単に学習面にだけに力を入れるのではなく、生徒が明るく充実した学校生活を送るとともに、生徒一人一人が確実に成長できる場としての学校を創造することが必要であった。

そこで、学力向上のための基盤づくりを重視しながら、学力の向上を図りたいと考え、実践主題を「学力向上を目指した教育活動の展開」と設定した。学校は生徒にとって生活の基盤であり、学びの場、生活の場としてふさわしいものにすることが、学校の使命であると考えたからである。

本実践は、平成19年度より取り組んできたことをまとめたもので、次の4点を柱としている。

第1は、「規律正しい生活づくり」である。学力向上の基盤として、学びの場、生活の場を創るためには、規律正しい生活づくりが重要であると考えたからである。

第2は、「5 Sタイムでの振り返り」である。具体的には後述するが、帰りの学活前の10分間を、自分の一日の学校生活を振り返る時間として位置づけ、ノートに自分の考えや思いを書かせる活動を取り入れている。

第3は、「小・中連携教育の推進」である。平成20・21年度の2年間、国立教育政策研究所の実践研究協力校（境剛志小・境西中）としての指定を受けたのを機に、学力向上に視点を当てた実践を行っている。

第4は、「日々の授業改善」である。本校では、教師一人一人が自己研修課題を設定し、日々の授業改善に力点をおいた実践を行っている。

以上の4点を柱とし、学力の向上を目指した本校の実践を以下に述べる。

## II 実践のねらい

「規律正しい生活づくり」「5 Sタイムでの振り返り」「小・中連携教育の推進」「日々の授業改善」を柱とし、学びの場、生活の場としてふさわしい学校づくりを行うことにより、学力の向上を目指す。

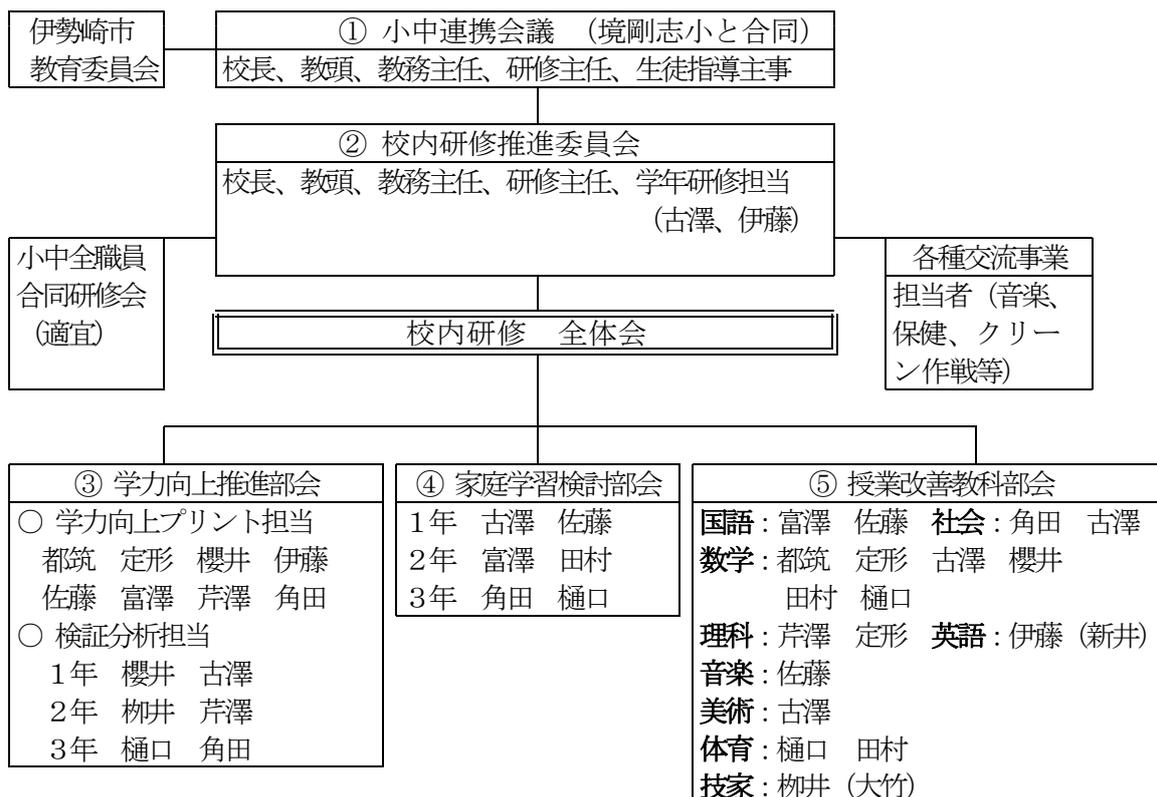
## III 実践の見通し

- 1 「規律正しい生活づくり」のための場を整え、継続的な取組を行うことにより、生徒の学力向上に向けた基盤づくりを行うことができるであろう。
- 2 生徒が自分の一日の学校生活を振り返るための時間を位置づけ、ノートに自分の考えや思いを書かせる活動を取り入れることにより、学校生活での落ち着きや学習への意欲

を高めることにつながるであろう。

- 3 「小中9年間で、責任をもって児童・生徒を育てる」ことを基本理念とし、学力向上に視点を当てた小中の一貫した教育実践を行うことにより、各学年で身に付けるべき学習内容の確実な定着が図られ、基礎的な学力が身についた生徒を育成することができるであろう。
- 4 一人一人の教師が自己研修課題を設定し、日々の授業改善を行うことにより、生徒一人一人に分かる授業が展開され、学力の向上に結びつくであろう。

#### IV 実践組織（平成22年度校内研修組織）



#### 【各組織の活動内容】

- ① 小中連携会議 … 小中連携の企画、原案作成、共通理解、連絡調整
- ② 校内研修推進委員会 … 実践の中心、各学年、各教科担当への連絡調整
- ③ 学力向上推進部会 … 基礎基本の定着を図るための具体的な取組
  - ・ 学力向上プリント担当 … プリント準備、修正、保管
  - ・ 検証分析担当 … データの集約、保管、分析
- ④ 家庭学習検討部会 … 家庭学習推進プランの作成。西中ガイドの工夫・改善
- ⑤ 授業改善教科部会 … 教科指導の重点設定。自己研修課題の立案

#### V 実践内容

本校では、学校教育目標を「知・徳・体の調和のとれた活力ある生徒の育成」とし、目指す学校像の第一に「学力が身に付く学校」を挙げている。

学力の向上には、学校生活の基盤を確立することが不可欠であるとの考えに立ち、平成19年度より「和やかに さわやかに 規律正しく」を学校教育スローガンとして掲げ、生徒一人一人が明るく充実した生活を送れる学校を創造するための教育を推進してきた。

以下に、本校の学力向上に向けた取組を述べる。

## 1 規律正しい生活づくり

規律正しく、落ち着いた学校生活づくりのために、次のような取組を行ってきた。

－ 三つの切り替え、二つの静寂 －

### (1) 三つの切り替え

規律正しい学校づくりの第一歩は、生活のリズムを確立し、時間を守った生活をするることであると見え、次の3つを大切な切り替えの時として徹底した指導を行っている。

ア 始業 〈 8 : 20 〉

- ・ 学校がスタートする重要な切り替えの時。8時20分にチャイムが鳴ったとき、教室の中にいなければ遅刻とする。担任は教室で出席確認と声かけをし、担任外は生徒用玄関で清掃をしている。

イ 終業 〈 16 : 10 〉

- ・ 帰りの学活が終わり、部活動への切り替えの時。

ウ 下校時刻 〈日没にあわせ設定〉

- ・ 一日の学校生活が終了する切り替えの時。はじめのある生活という観点から、下校時刻を厳守し、あいさつを交わしながら、全職員で下校指導をしている。

### (2) 二つの静寂 (学校全体の静寂の時)

ア 朝学習、朝読書 〈 8 : 20 ~ 8 : 40 〉

- ・ ドリル学習を10分間、読書を10分間行っている。

イ 5Sタイム (振り返りの時間) 〈 15 : 55 ~ 16 : 05 〉

- ・ この10分間は、自分の一日の生活を振り返る時間である。詳しくは、次の項で述べる。

※ 「三つの切り替え、二つの静寂」の合言葉のもと、上記の取組を継続的に粘り強く行ってきた。生徒の生活のリズムを確立し、学びの場、生活の場にふさわしい学校とするために、大変有効な取組であったと考える。

現在、生徒は、ごく自然な形でこの取組をもとにした学校生活を送っている。

## 2 5Sタイムでの振り返り

### (1) ねらい

- ・ 1日の学校生活の節目として、帰りの学活の前に自分を振り返る場を設定することにより、生徒に自己を見つめさせるとともに、生徒の心の成長を促す。
- ・ 5Sノート (B6判で自分の考えや思いを記入するノート) を通して、担任と生徒との心の交流を図る。

### (2) 伊勢崎市教育構想における位置付け

- ・ 生活学校プラン「きれいな学校づくりの時間」における5S (整理、整とん、清掃、清潔、しつけ) にかかわる活動の一環として位置付けており、“心をきれいにする”時間である。

### (3) 実施時間及び方法

ア 実施時間

- ・ 15 : 55 ~ 16 : 05 (6校時終了後、10分間)  
[本時間と朝学習・朝読書の時間(8:20~8:40)は、学校全体の静寂の時である]

イ 実施方法

- ・ B6判のノートに、その日の自分を振り返り、考えや思いを記入する。
- ・ 状況に応じてテーマを設定しているが、テーマ設定については、個々の担任の裁量に任せている。
- ・ 毎回ノートを回収し、担任のコメントをつけて返す。

### (4) 成果と課題

ア 成果 (教師の感想より)

- ・ 学校全体が落ち着いてきた。
- ・ 生徒の心の悩み、生徒の感じ方を理解できるようになるなど、生徒理解を深め

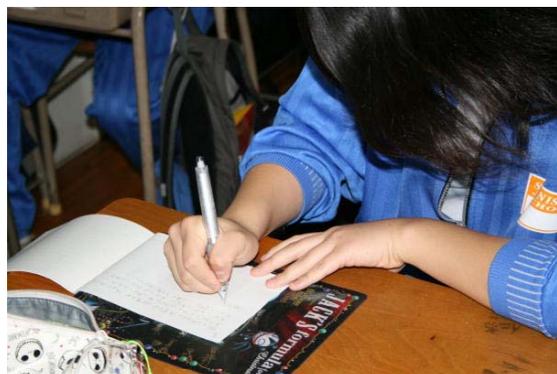
ることができた。

- ・ 生徒が内省する機会となった。
- ・ 各テーマ、学級の問題、社会現象等に対する生徒の感じ方を知ることができた。
- ・ 6校時と帰りの学活の間に5 Sタイムを設定したことにより、帰りの学活への切り替えが円滑にできるようになった。
- ・ 保健室に来室し、養護教諭と話をする生徒が減ってきた。(担任との結びつきが強まったことが要因として考えられる。)
- ・ 定期テストにおける作文の問題で、長文が書けない生徒が減ってきた。(書くことが身近になったと考えられる。)

#### イ 課題 (教師の感想より)

- ・ 適時性のあるテーマの設定が難しい。
- ・ 毎日欠かさずに5 Sタイムを実施しているが、時には行事等の準備で放課後の時間を多く確保したいこともある。

### 〈 生徒の取組の様子 〉



※ “心の整理”という観点から、その日の自分を振り返り、ノートに記入しており、自己を見つめ、次へのステップにつなげる大切な時間となっている。

### 3 小・中連携教育の推進

平成20・21年度の2年間、国立教育政策研究所の実践研究協力校(境剛志小・境西中)としての指定を受け、「小中9年間で、責任をもって児童・生徒を育てる」ことを基本理念とし、実践的研究を行った。

#### (1) 研究主題

「確かな学力を身に付け、自ら学ぶ児童・生徒の育成」

— 小中9年間の一貫した教育活動の推進を通して —

(2) 研究のねらい

系統的な学習プリントの工夫・改善と活用、発達段階に応じた生活・学習の約束に基づいた指導を工夫するなど、小中9年間の一貫した教育活動を推進することにより、確かな学力を身に付けた自ら学ぶ児童・生徒を育成する。

(3) 実践の柱

- ① 伊勢崎式学力向上学習プリントの工夫・改善（独自プリント）、徹底活用
- ② 小中共通の「生活・学習の約束」に基づいた系統的・継続的な指導による生活習慣、学習習慣の形成

(4) 伊勢崎式学力向上学習プリントの徹底活用

基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせることを主なねらいとし、伊勢崎市で作成している伊勢崎式学力向上学習プリント（以下、市プリ）の徹底活用を図った。併せて、市プリの工夫・改善を行い、本校独自のプリントも活用した。

活用方法は、授業時間以外の時間としてパワーアップタイム（毎朝10分間、月曜の6校時。以下PTと記述）を設定し、主にその時間において活用した。

詳しくは以下に述べるが、本校では、市プリを意図的、計画的に徹底活用するためのプログラムを「境西中スタイル」と名付けている。

ア 実施教科

- ・ PTにおいては、平成21年度は数学と英語にしぼり、平成22年度は数学と英語を中心とし、理科と社会も加えた。

イ 実施内容

- ・ ドリル的な内容を10分で完結するようにする。（答え合わせ含む。）
- ・ 基礎的な内容を出題し、必要に応じて前学年で身に付けるべきものに戻る。特に低位群の習熟を図ることに留意する。

ウ 実施形態 [資料1 参照]

PTの形態は以下の3種類で、3種類のPTが連動するように工夫した。

- SPT（ショートPT … 毎朝の10分間）
  - ・ 1週間同じ教科を続ける。（昨年度は、数学2週間→英語1週間→数学2週間→英語1週間のサイクルで実施。）
  - ・ 1年の4月は小学校の4、5、6年の算数の市プリから始める。5月下旬から英語を開始。
- MPT（ミドルPT … 会議のある1・3週の月曜6校時に30分実施）
  - ・ 数 学：学習内容を单元ごとに「振り返りチェックシート」で確認しフィードバックする。「確認テスト」で定着状況を見る。
  - ・ 英 語：「基本文確認テスト」で評価する。できない生徒を早期に把握し、LPTの補習へつなげている。
- LPT（ロングPT … 会議のない2・4・5週の月曜6校時に50分実施）
  - ・ 習熟の程度に応じた補習をコース別（発展・基礎）で行う。学年教師で分担し、コースを受け持つ。
    - ・ Aコース：定着が十分な生徒へ発展的な問題を与え、上位群をさらに伸ばす。独自プリントの活用、生徒同士の教え合いを取り入れる。
    - ・ Bコース：定着の不十分な生徒の補習。（わからない生徒を集めて、個別指導を行う。）
- 学期末、学年末のコンテスト（JEM：J国語、E英語、M数学）の実施
  - ・ 1，2，3学期末に3教科のコンテストを実施する。内容は、その学期中に行った市プリや小学校の内容、授業ミニテストから出題し、不合格者（80%未満）には再テストを行う。

## エ 実践経過（平成21年度）

### ① SPTについて

- 1学期、2学期とも事前の計画表通りに実施できた。1年間で140回実施し、その内、数学は95回、英語は45回であった。

### ○ 数学について

後半は、授業の内容に合わせ、市プリをもとに改善した独自プリントを作成した。

1年：方程式の利用、比例、反比例、対称な図形

2年：1次関数の利用、平行線と角、平行と合同、合同な図形、二等辺三角形

3年：相似、三角形と比、中点連結定理、平行線と比、三平方の定理

### ○ 英語について

教科書で扱う基本文型を中心に徹底した習得を図った。

1年：単語と基本文のセットで市プリから問題を選び、組み合わせて作成した。

2年：重要な基本文を日本語と英語でセットにし、どちらも書けるように繰り返した。全て独自プリントを使用した。

3年：1年生の復習を1学期から始め、2学期は2年の内容で難しい部分を取り出して使用した。

### ○ 実施の様子

時間前に日直がプリントを配付し、チャイムと同時に学習を始める習慣が身に付き、生徒は10分間集中して問題に取り組んだ。

### ② MPT、LPTについて

- ・ MPTで單元ごとの「ふりかえりチェックシート」で確認し、LPTで習熟程度に応じたクラス分けを行い、補充を図るという流れが有効に機能し、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。
- ・ 定着が不十分な生徒に対して補習や個別指導を繰り返し行ったことにより、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。

### ③ 内容の定着度

- ・ 計算コンテストでは、80点以上を合格としたが、2学期における合格者数が、1学期より増えてきた。
- ・ 英語の市プリ確認テストでは、平均点は80点前後であったが、回を重ねるごとに平均点上がる傾向であった。

### ④ 生徒の意識調査から

1学期と2学期に意識調査を行った結果、PTを有用であると感じている生徒が多いことが分かった。集中してPTに取り組む生徒が増えたと教師も実感している。

2学期の主な結果は、次の通りである。

- ・ 真剣に取り組んだと答えた生徒（1年98%、2年97%、3年89%）
- ・ 数学の計算力がついたと答えた生徒（1年90%、2年91%、3年81%）
- ・ 英語の基本文型がわかった生徒（1年80%、2年86%、3年70%）

### (5) 小中の一貫した生活・学習ルールによる徹底指導〔資料2参照〕

学びの場、生活の場づくりとして、小中共通の生活・学習ルールを設定し、発達段階に応じた適時性のある指導を行った。このことは、発達段階に応じた生活・学習習慣の定着、小中の生徒指導面での共通理解・共通指導という面において、有効であった。

## 4 日々の授業改善

本校では、教師一人一人が自己研修課題を設定し、授業改善計画に基づいた日々の授

業改善を行っている。

(1) 自己研修課題

本年度の自己研修課題のいくつかを以下に示す。

- ・ 仲間と学び合うことによって、個が高まっていく学習指導
- ・ 教え合う時間を設け、数学の面白さを体感させ、数学に対する興味・関心を高める授業
- ・ 図表等の資料活用力を高めるとともに、自分の言葉で表現できる生徒の育成
- ・ 運動を正しく理解し、考えて表現できる生徒の育成

(2) 授業改善報告

1年間の実践を報告書にまとめ、次年度に向けた改善に生かしている。以下に、昨年度の報告書の一部を示す。

氏名	○ ○ ○ ○	教科等	国 語
自己研修課題	自分の考えを深め、他に伝えるための表現力の育成を図る。		
1学期の授業改善計画	○ 「1 新しい世界へ 虹の見える橋」(1年)		
2学期の授業改善計画	○ 「3 状況に生きる 挨拶一原爆の写真によせて」(3年) ○ 「3 心の歩み 麦わら帽子・大人になれなかった弟たちに・・・」(1年)		
3学期の授業改善計画	○ 「6 自分を見つめる 少年の日の思い出」(1年)		
実践報告	1 研究授業について (1) 研究授業公開日 10月1日(木) 第5校時 1年A組 (略)		
2	自己研修課題に基づく日常の授業実践 ○ 授業中の発問に対して、必ず自分の考えを持つ習慣を身につける。 (プリントの工夫・考えの確認等) ○ 題材ごとにまとめとして100字～200字程度の文章を書く。 ○ お互いの考えを理解し合うために、感想交流会を計画する。 ○ 定期テストや復習テストでの作文評価の推移を確認する。		
3	今年度の成果と課題 (略)		

(3) その他、各教科における学力向上に向けた主な取組

〈 国 語 〉

- ・ 漢字の読み書きの確認テスト(5分間)を毎時間実施した。
- ・ 漢字練習帳を1ページずつ宿題として与え、点検とチェックテストを交互に行った。

〈 社 会 〉

- ・ 歴史分野では、自作の予習プリントを毎時間配付し、家庭学習をさせてから学習に臨ませた。
- ・ 1時間の授業を行うために、約3時間の教材研究を行った。

〈 数 学 〉

- ・ 始業時には、市プリを活用して小テストを行った。
- ・ 家庭学習の課題としてワークブックを使い、既習事項の定着を図った。

〈 理 科 〉

- ・ 4月当初にガイダンスを確実にいき、理科の学習の仕方、家庭学習の仕方、テスト勉強の仕方について説明した。

- ・実験観察記録を提出させ、その日のうちに評価をしてノートに整理させた。

〈 英 語 〉

- ・始業時に、単語、基本文の確認テストを実施した。
- ・基本文型マスターを徹底活用し、音読と暗唱等の反復練習の実施した。

## V ま と め

「規律正しい生活づくり」「5 Sタイムでの振り返り」「小・中連携教育の推進」「日々の授業改善」を柱とし、学びの場、生活の場としてふさわしい学校づくりを行うことにより、学力の向上を目指してきた。

その検証は十分とは言えないが、現在、生徒が変わり、学校が変わったことを実感として受け止めている。以下に、主な成果と課題を述べる。

### 〔 成 果 〕

- 落ち着いた学校
  - ・ 「三つの切り替え、二つの静寂」を柱とした規律正しい生活づくりのための取組を継続的に行うとともに、5 Sタイムによる生徒の内省を図ったことにより、大変落ち着きのある学校となった。
- 学習習慣、生活習慣の形成
  - ・ 小中の一貫した生活・学習ルールによる徹底した指導を行ったことにより、学習習慣、生活習慣の定着が見られるようになり、学力向上のための基盤づくりができた。
- 基礎学力の向上
  - ・ 伊勢崎式学力向上学習プリントを継続的に徹底して活用したことにより、基礎的・基本的内容の定着が図られた。さらに、生徒の学習意欲の向上、家庭学習習慣の形成にもつながった。
  - ・ 「先生方はいい仕事をしている。」これは、ある生徒がパワーアップタイムの取組に対して述べた言葉である。生徒は自分の力が伸びていることを実感しており、この取組の成果を端的に表している言葉とも考えられる。
  - ・ N R T学力検査、全国学力・学習状況調査において、ともに全国平均を大きく上回る結果となった。
  - ・ N R T学力検査結果（5教科の全校平均、毎年4月に実施）の推移は、平成19年度において全国平均をやや上回っていたが、年度ごとに上昇し、平成22年度は平成19年度に比べ、4.2ポイント上回った。

### 〔 課 題 〕

- 学習面
  - ・ 授業の質的改善（「教えて考えさせる授業」の創造）
  - ・ 意図的、計画的な家庭学習の実施
- 生活面
  - ・ 良好な人間関係の構築
  - ・ 自立できる活力のある生徒の育成
  - ・ リーダーの育成

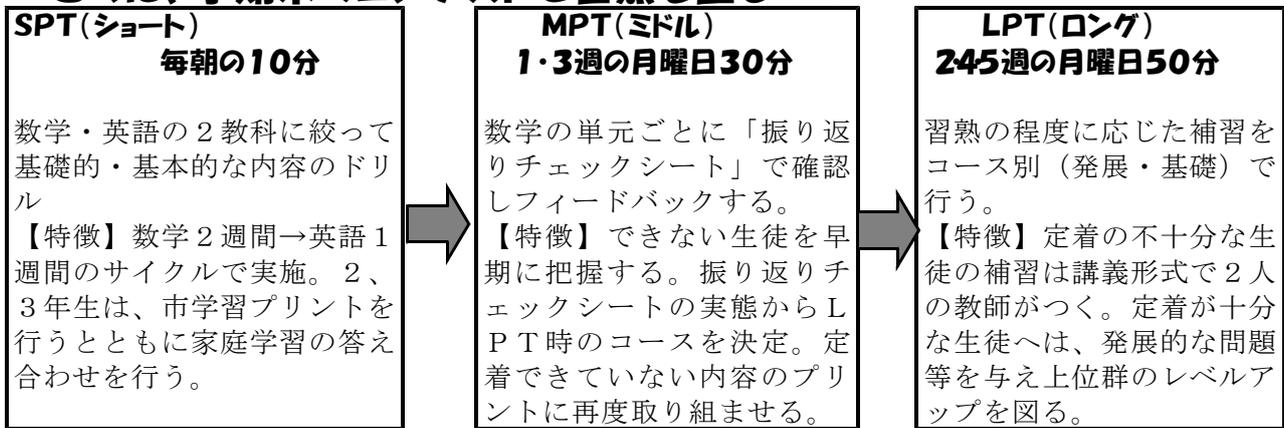
現在、本校は、学びの場、生活の場にふさわしい学校となっていると思われ、そのことが、学力向上の大きな要因になっていると考えられる。

教師の思いが生徒に伝わり、教師の取組が生徒に響く学校となっているとも言える。まだまだ課題があるものの、より高きを目指し、着実な教育活動を展開していきたい。

**小中一貫教育の取り組み (2年次)**  
境剛志小学校 + 境西中学校  
**学力向上プログラム「境西スタイル」**

国立教育政策研究所の実践研究協力校として、昨年度から継続し伊勢崎市教育委員会の指導を仰ぎながら研究に取り組んでいる。特に学力向上のプログラムとして伊勢崎市学力向上プリント (市プリ) を活用した「境西中スタイル」を計画し、実践してきた。

**「境西中スタイル」: 3つのパワーアップタイム (PT) を関連させて!**  
**さらに、学期末のコンテストで習熟を図る!!**



例 中2年 この欄は朝のSPT (ショート) の実施日とその内容  
M…ミドルPT L…ロングPT

6月			7月				
月×	文字式の利用 ①②	<b>M</b> 式の計算 振り返りチェックシート	水×	数学1学期 の復習	<b>L</b> 数学コンテストの コース別練習	1	
火○			木×			2	
水○			金○			連立方程式⑥	3
木○							4
金○							5
月○	文字式の利用 ⑤⑥	<b>L</b> 式の計算、文字式の 利用 コース別補習	月○			6	
火○			7				
水○			8				
木○			9				
金○			10				
月○	英語2年基本文型⑩		月○	コンテスト 後、未習熟 内容プリン ト	<b>M</b> 数学 計算コンテスト実 施	11	
火○			12				
水×			13				
木○			14				
金×			15				
						16	
						17	
						18	
	< 以下略 >						

★学期末のコンテストは、全校一斉に国語 (漢字)・英語 (単語)・数学 (計算) を実施。各テストとも実施前に家庭学習等で練習を積みませ、不合格者は再テストの機会を確保している。

生活・学習のルール（境剛志小・境西中共通）		境西中学校
生活	境剛志小学校 学年 境西小学校 高学年	校内で行き会う人、地域の知人、訪問者などの状況を見て、自分から礼儀正しい（丁寧、挨拶をする）
1 あいさつやへんじをしっかりとしよう	境剛志小学校 学年 境西小学校 高学年 (友達や先生にあつたら)「お(いつもだれにでも)自分に進んであいさつやえしやくをする	
2 言葉づかいをしっかりとしよう	「はい」としつかり、気もちよく返事をします。 自分のことをはっきり話す。「です」「ます」を使い、ていねいな言葉づかいをする。	T(時) P(人) O(場面)を考え、それに適した言葉遣いを選んできちんとする。
3 身だしなみをしっかりとしよう	友達には「さん」「君」「ちゃん」をつけて呼ぶ。 自分の服をきちんと着る。給食着や体育着を正しく着る。	T P O に適した季節感、清潔感のある服装や髪型を考え、アスナーなどを開けすぎない、腰パンなど×
4 清掃をしっかりとしよう	爪を切り、ハンカチ、ティッシュを忘れない。 自分の決められた分担当をしっかりとやる。	分担当終了後、自分から仕事を見つけて、真剣に掃除をする。
5 時間を守ろう	くつやスリッパをきちんとそろえる。 先生が示した時間を守る。時計を見て動く。	早めに行動し、余裕をもって動く。(登校時間、授業、下校時間など)
1 忘れ物(提出物)をしっかりとしよう	翌日の準備をし、家の人に確認 自分で翌日の準備をする。 連絡帳を書いて家の人に見てもらおう	必要なものの準備や提出物の期限を必ず守るよう、計画的に取り組む。
2 チャイルドと同時に授業を始めよう	授業が始まる前に席に着いて授業開始時間になったら自主的に学習をしている。	次の教科の準備や学習をして自分から勉強をしている。
3 人の話や先生の話をしっかりと聞こう	相手の目を見て最後まで話を聞く。 自分の考えや意見と比べながら聞く。	話の内容や意図を理解しながら聞き、自分の考えを深める。
4 よい姿勢で学習しよう	よい姿勢でいすに座り、発言する時はしっかりと手を持ち上げる。	主体的に学習し、質問をする。
5 宿題、家庭学習にしっかりと取り組もう	毎日の宿題を忘れずにやる。宿題の他に自主学習にも挑戦する。 低学年 30分、中学年 60分、高学年 90分を目指した家庭学習を目標とする。	最低2時間の家庭学習をしよう。予習、復習のやり方を工夫する。 2時間以上の家庭学習をする